

紙者、悉大經師役に而拵遣候、

一宮内住宅南都御用有之節者、出京いたし候、塔之壇幸神町に屋敷致所持候、知行者三十石被下候由、

一澀川右門は天文者に而七曜曆考寫本、毎年指出候、寺社奉行衆より所司代江被遣宮内内匠江被仰付、板行大經師方に而致候、

一大經師内匠者、曆之寫本、宮内方より請取、板行仕、六月に、江。戶。奥。州。會。津。伊。豆。三。島。勢。州。山。田。南。都。右。五。個。所。曆。師。江。板。行。之。寫。本。曆。二。十。一。卷。所。司。代。江。差。上。申。候。所。司。代。より、寺。社。奉。行。衆。江。被。指。越。候。所。司。代。在。府。中。者、兩。奉。行。所。より。指。下。し。申。候。於。江。戶。澀。川。右。門。江。曆。爲。改。其。已。後。寺。社。奉。行。衆。より、右。五。所。之。奉。行。所。江。被。指。越。候。曆。師。共。江。相。渡。致。板。行。候、

一大經師板行之曆、毎年霜月に、禁裏院御所、關東江、致獻上候、御所方下部迄、曆遣申候、且又御所方御殿之障子張替役、年中相務申候、

一内匠知行高、十壹石二斗餘被下置、諸役御免許前々者、繪旨頂戴、所司代下知狀相渡り候得共、親内匠より不相渡候由、

〔府内備考^{十三}〕淺草 頒曆調所又測量所と

諸國曆師及賣曆人左のごとし日本國中曆面版

伊勢内宮曆師大板小板壹面宛所持

同 外宮曆師

佐藤伊織

飛鳥帶刀

外宮拾四人、各小板壹面宛、大板は三面之板名字入替相用、内一統折曆、右校合曆三十卷、山田奉行より來、不殘賦曆にて、賣曆にては是なし、以下十三人姓名略

伊勢丹生折曆一面、校合曆、紀州御城町より、

曆師 賀茂杉大夫